

13: 成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 加藤 光次	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
石田 高司	岩手医科大学	内科学講座 血液・腫瘍内科分野
宇都宮 與	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
鈴宮 淳司	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
高塚 祥芝	公益財団法人慈愛会 いづろ今村病院	
東梅 友美	山形大学大学院医学系研究科	内科学第三講座血液・細胞治療内科学分野
中瀬 浩一	愛媛県立中央病院	血液内科
名和 由一郎	愛媛県立中央病院	血液内科
菱澤 方勝	京都大学医学部附属病院	血液内科
福島 卓也	琉球大学医学部	保健学科病態検査学講座血液免疫検査学分野
増田 昌人	琉球大学医学部附属病院	がんセンター
和氣 敦	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院	血液内科
崔 日承	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	血液内科
朝倉 義崇	日本赤十字社 沖縄赤十字病院	血液内科
中野 伸亮	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
藤原 弘	三重大学大学院 医学系研究科	個別化がん免疫治療学分野
町田 真一郎	東海大学医学部付属病院	血液腫瘍内科
澤山 靖	長崎大学病院	血液内科(原研内科)
多田 耕平	国立がん研究センター 中央病院	血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
井上 明威	熊本大学医学部附属病院	血液内科
今田 和典	大阪赤十字病院	血液内科
吉田 功	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	血液腫瘍内科
吉満 誠	鹿児島大学病院	血液・膠原病内科
藤 重夫	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	血液内科
福田 隆浩	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
進藤 岳郎	京都大学医学部附属病院	血液内科
徳永 雅仁	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
村主 啓行	京都大学医学部附属病院	血液内科
森島 聡子	琉球大学医学部附属病院	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)
友利 昌平	琉球大学医学部附属病院	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)

家村 知樹	京都大学医学部附属病院	血液内科
-------	-------------	------

2. 会議開催記録(2018 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
2018 年 1 月 7 日 (第 20 回)	国立がん研究 センター 新研 究棟	「染色体異常が ATL に対する同種移植成績に及ぼす影響」の二次調査進捗状況について中野先生より報告。井上先生「ATL における移植前処置に関する検討」、徳永先生「近年の ATL における臍帯血移植の成績向上とその位置づけ」、澤山先生「ATL に対する同種移植後の感染症に関する検討」、藤先生「ATL に対する同種移植における GVHD 発症率の変化が予後に与える影響」、吉満先生「ATL における HLA 不適合移植」、村主先生「ATL に対する GRFS」の各先生より、研究の進捗状況についてご報告頂いた。また、「ATL に対する移植における HLA と GVL/GVHD の検討」について新規提案が提出された。(参加数 14 名)
2018 年 2 月 2 日 (第 21 回)	ホテルさっぽろ 芸文館 8F	「染色体異常が ATL に対する同種移植成績に及ぼす影響」の二次調査および徳永先生「近年の ATL における臍帯血移植の成績向上とその位置づけ」について解析結果の報告がなされた。新規提案として、吉満先生から「HTLV-1 抗体陽性ドナーからの移植」が提案された。(参加数 4 名)
2018 年 7 月 15 日 (第 22 回)	名古屋第一赤 十字病院内ヶ 島講堂 ロビー	中野先生「染色体異常が ATL に対する同種移植成績に及ぼす影響」の二次調査、井上先生「ATL における移植前処置に関する検討」、徳永先生「近年の ATL における臍帯血移植の成績向上とその位置づけ」、澤山先生「ATL に対する同種移植後の感染症に関する検討」、藤先生「ATL に対する同種移植における GVHD 発症率の変化が予後に与える影響」、吉満先生「ATL における HLA 不適合移植」、村主先生「ATL に対する GRFS」、吉満先生「HTLV-1 抗体陽性ドナーからの移植」森島先生「ATL に対する移植における HLA と GVL/GVHD の検討」の各先生より、研究の進捗状況についてご報告頂いた。(参加数 12 名)

3. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2018 年 12 月末時点まで) (2613)回

4. WG の今後の活動方針・抱負など

2018 年は、打ち合わせ会 3 回開催であり、論文 3 編、学会発表 3 演題であった。

新薬時代においても、予後不良な ATL に対して、造血細胞移植は依然重要な役割を果たし、その移植件数も年々増加している。確かに、ATL に対する同種移植は標準治療としてその位置付けは確立されているが、他疾患と比較した場合、依然その移植成績は不良である。ATL に移植が導入されて約 20 年過ぎた今、今後の成績向上を目指すにあたり、ATL に対する移植治療の最適化を目指す研究が再度必要と考えられる。2017 年に提案された「前処置」、「ドナーソース」、「感染症」、「GVHD」、「GRFS」などの近年の変化を明らかにするような研究のデータ解析が、2018 年は進み、学会発表もなされた。移植最適化のための改善点を明らかにする研究をさらに進めていく。

ATL は希少疾患であり、本邦で集積されたデータの情報発信は、世界的に重要である。ATL-WG 内で、今まで以上に積極的な議論を行い、ATL 移植成績向上のための基盤となるような研究を進めていきたい。